

特集

《6》 創造都市戦略による地域のイノベーションと情報発信の推進

経済振興施策としての「創造都市」

はじめに 横浜を創造的活動とチャンスがあふれるまちに

情報化の進展などにより社会や経済がグローバル化する一方で、これまでのような成長が期待できない都市の成熟期において、横浜が都市として持続的発展を維持していくためには、人口などの都市の規模ではなく、都市の新しい価値や魅力を高め、発信していくことが求められている。

また、都市が持続的発展を続けるためには、市民・企業による創造的活動が活発に行われる経済社会を実現することが肝要であり、このためには、イノベーションつまり、「創造的活動によって生み出された、新しい価値（文化芸術・デザイン・技術・サービス等）が社会に普及して、経済社会に変革をもたらされること」を、継続的に起こしていくことが必要条件となる。

一方、地域経済では、企業の技術革新、経営革新、グローバル化の進展などにより、新しい動きが始まっている。さらに、創造都市という新しい都市像をめざした戦略を進めており、この新たな潮流を活かしたチャレンジあふれる試みも生まれてきている。

そこで、ここでは、イノベーションという視点から横浜経済にスポットを当てて、地域活性化における創造都市の役割と可能性について、私見を交えて整理したい。

1 持続的発展のための3つの支援システムと創造都市の役割

① 都市の持続的発展を支える3つのシステム

複雑多様な都市において、諸政策を進めていくためには、都市を道路、鉄道、港湾、経済、文化、環境など、要素に還元するのではなく、都市全体を生命体として捉えて総合的な政策を進めていくことが大変有効である。

3つのシステムによって体を維持している。1つ目は「血管系」、エネルギーを体内に取り入れたり、老廃物を体外に運び出したりするもので、私たちの体では心臓、動脈や静脈などである。2つ目は「神経系」、多細胞である体を全体に秩序ある動きをさせるための情報伝達をするもので、脳、脊髄や神経などである。3つ目が「免疫系」、外敵が入ってきたときや癌細胞が生まれたときなどに、これらを退治して体の守りの役割をするもので、T細胞やB細胞などの免疫細胞群である。この3つのシステムは、生命維持のためにはいずれも欠くことができないものであるが、成熟期においては特に生命を守り元気にする「免疫系」の役割が重要になってくる。

「免疫系」の3つのシステムのどれもが不可欠である。都市の血管系とは「道路、鉄道、上下水道、電気、ガス」などのエネルギーの受給網、神経系とは「業務・商業集積や情報通信網」など、免疫系とは市民、NPO、企業などによる「地域課題解決のための連携」や、港の景観・歴史の建築物・人材など「地域資源の結合による文化芸術の創造」「企業と大学との連携による新技術・新産業の創出」などである。

都市も人間と同じように、誕生、成長期・成熟期・衰退期という過程があるが、国や自治体はこれまで成長期の過程にあった都市に対して、また、成熟期に移行してからも、「血管系」「神経系」の2つのシステムを中心に整備を続けてきた。しかし、横浜市など、既に成熟期の段階にある都市において、「血管系」と「神経系」のインフラを中心に整備を続けていても決して元気にな

執筆

金子 延康

開港150周年・創造都市事業本部 担当部長

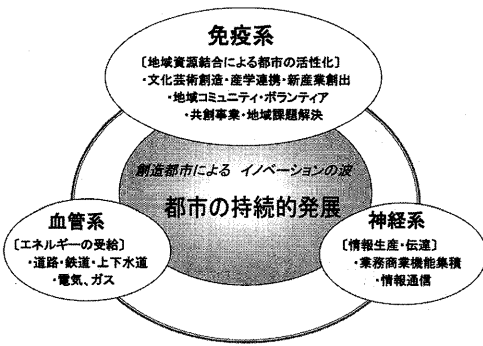


図1 都市の持続的発展を支える3つのシステム

らない。成熟期にある都市に必要なのは、文化芸術の創造や新産業の創出など、「免疫系」の充実による創造都市づくりなのである。(図1)

②都市のイノベーションを促進する免疫系システム

血管系や神経系が、心臓や脳を中心としたピラミッド構造であるのに対して、免疫系の特徴は、ネットワーク構造にある。体のなかでは、T細胞、B細胞などの免疫系のブレイヤーが、連携して機能をはたしている。ここでは多様なブレイヤーたちが、課題を解決するための情報を共有しながら生命を維持活性化している。

都市においても「市民、NPO、企業」などの免疫系のブレイヤーたちが、それぞれの能力を発揮しながら、創造のためのコラボレーションすることができ。しかし、そのためには情報をきちんと共有化して共通の課題を認識すること、その課題解決のためにうまく能力を出し合いながら都市を維持活性化していくことが肝要である。

③地域のイノベーションを推進する文化芸術創造都市

都市において文化芸術などの創造的活動が盛んになるこ

とは、私たちの体の中で免疫細胞の活動が活発になるのと同じである。横浜市がより住みやすい元気のある都市となるよう、「市民、NPO、企業」との情報共有をさらに進めて、免疫ネットワークを形成しながら、魅力的な創造都市づくりを推進していく必要がある。

文化芸術は、産業の創造を加速し地域を元気にする。一般に、文化芸術は社会の装飾だと位置づけられる傾向にあるが、地域資源の新結合を促進させる効果を持つことから、社会、経済、環境等の全ての根幹にあり、それらの発展には文化芸術が不可欠である。また、文化芸術は、個人の趣味や嗜好の対象となるだけでなく、社会的な存在として公共性を持ち、市民生活や都市活動に大きな役割を果たすものである。その革新的な発想により、閉塞状態にある多様な社会問題へ有効な解決策を導いたり、新たな産業の種を生み出したりするものである。

さらに、デザイン・映像・メディア・コンピューターソフト、建築、等の創造的産業は今後の経済に大きな影響と活力を与える産業である。これらの産業が持つ新たな価値創造力は、経済再生、社会再

生の力を持ち、さらに、都市の観光などへと広がる可能性がある。創造的産業は、それ自身が成長産業であると同時に、他の産業の高付加価値化を促進する役割をも担う重要な産業である。

2 創造都市横浜の経済活性化に向けた取組と課題

創造都市横浜の経済活性化に向けたこれまでの取組と課題は次のとおりである。

①これまでの取組

○創造実験都市
横浜市では、平成元年に策定した「新産業構造ビジョン」において、めざすべき都市像を「創造実験都市」と位置づけ、創造力を持った人に着目し、人々が集まり交流するためのインフラや、これからの産業を動かしていく文化を創造していくような地域経済政策を打ち出している。現在、国内外で創造都市による地域活性化や、創造的人材の誘導の取組が進みつつあるが、横浜市はこれらに先駆けてビジョンを示し事業を実施してきている。

○文化芸術創造都市(クリエイティブシティヨコハマ)

横浜市は長年の都市デザイン活動により、都市の独自性

を確立してきた実績があるほか、文化人や芸術家も多く在住し、また、市民やNPOによる文化芸術活動も盛んな土壌がある。(表1)

横浜市が、本格的に、「文化芸術創造都市」に取り組んだのは平成16年からで、「横浜市中期計画」においても、重点政策の1つとして位置づけ、ナショナルアートパーク、創造境界の形成、映像文化都市づくり、横浜トリエンナーレの開催、創造の担い手の育成事業などを推進してきている。(注1)

○創造都市のこれまでの取組と効果

創造都市の対象領域は非常に広い。文化芸術の振興をその中心に据えるケースもあれば、産業振興やツーリズムなどに重点をおいている都市もある。本市ではこれまで、都市デザインの実績をふまえて、文化芸術の振興を中心とした創造都市づくりを進めてきている。

この創造都市づくりにより、港の景観や歴史的建築物などの地域資源を活かした快適な街が形成されてきている。また、地域資源を繋ぎ、ひらめきと創造を生み出す魅力ある環境も整えられてきている。

これらは、人が都市を選択

表1 創造都市の地域資源(クリエイティブな人材が多く住む横浜)

【全国】	1985年		1990年		1995年		2000年	
	就業者数	指数 (85=100)	就業者数	指数 (85=100)	就業者数	指数 (85=100)	就業者数	指数 (85=100)
就業者総数	58,336,129	100.0	61,733,800	105.8	64,181,893	110.0	63,032,271	108.1
合計	489,279	100.0	562,400	114.9	580,086	118.6	592,966	121.2
文芸家、記者、編集者	115,310	100.0	128,600	111.5	126,136	109.4	129,499	112.3
美術家、写真家、デザイナー	208,741	100.0	254,100	121.7	254,893	122.1	265,908	127.4
音楽家、舞台芸術家	165,228	100.0	179,700	108.8	199,057	120.5	197,559	119.6
【横浜市】	就業者数 (対全国シェア、%)	指数 (85=100)	就業者数 (対全国シェア、%)	指数 (85=100)	就業者数 (対全国シェア、%)	指数 (85=100)	就業者数 (対全国シェア、%)	指数 (85=100)
就業者総数	1,422,259 (2.4)	100.0	1,620,271 (2.6)	113.9	1,702,403 (2.7)	119.7	1,700,990 (2.7)	119.6
合計	19,279 (3.9)	100.0	23,684 (4.2)	122.8	24,586 (4.2)	127.5	25,532 (4.3)	132.4
文芸家、記者、編集者	5,240 (4.5)	100.0	5,621 (4.4)	107.3	6,576 (5.2)	125.5	6,018 (4.6)	114.8
美術家、写真家、デザイナー	8,014 (3.8)	100.0	10,948 (4.3)	136.6	10,349 (4.1)	129.1	11,431 (4.3)	142.6
音楽家、舞台芸術家	6,025 (3.6)	100.0	7,115 (4.0)	118.1	7,661 (3.8)	127.2	8,083 (4.1)	134.2

資料：国勢調査 抽出詳細集計結果

(注1) 詳細は「(3)横浜市の創造都市施策の実績と検証」各章参照

する時代において、人を誘引し交流を推進するためのインフラであり、都市の免疫系の充実によりイノベーションを促進する効果を果たしている。

創造的産業の誘導については、東京芸術大学大学院映像研究科を誘致する等、創造的人材の育成を進めるとともに、誘致助成制度を設置し、映像系関連企業をはじめとする映像文化産業の集積を図ることができる。さらに、「創造都市横浜推進協議会」が設立され、企業、各種団体および行政が相互に連携したネットワークの形成も始まっている。

これらの創造都市づくりによる効果は多方面に及ぶことや、社会経済のインフラのため効果が出るまでタイムラグがあることなどから、効果全体の数量的な把握は難しい。参考までに、創造界限を形成したことによる経済効果に限定した効果分析では、平成16年から18年までの3年間で、120億円、さらには毎年60億円以上の効果が続くと試算されている。(図2)

また、「創造都市横浜」は、国内外から高い評価を得ており、いわば横浜のブランドともなりつつある。国内の会議のみならず、フランス、韓国、台湾など、海外で開催される

創造都市をテーマとした会議においても、横浜の事例が紹介されている。(注2)さらに、これまでの創造都市の取組と成果が評価され、今年、文化庁から創造都市部門として栄えある第1号の長官表彰を受けている。

② 経済活性化に向けた課題

内外からの評価の一方で課題も多くある。創造都市横浜推進協議会から、今年の7月に出された提言では、これまでの創造都市事業の成果を、経済や観光環境分野など、さらに広げて展開していくことが課題としてあげられている。また、産業集積の観点から映像コンテンツ産業誘致・育成の推進に向け、立地促進施策の見直し、事業サービス・育成環境の形成など集積施策を拡充するとともに、デザイン産業を始めとする発展の見込める業種について、必要な対策を講ずるべきとしている。

これまで集積してきているアーティスト・クリエイターの活動を文化・観光産業や新しい創造産業に結びつけ、持続的に活動可能な仕組みづくりに繋げていく「創造都市」の施策の進化が必要である。具体的に取り組むべき課題としては、横浜らしい観光イベントと文化芸術との連携、創造的産業の誘致、市民と一緒に取り組む文化観光戦略、創造都市事業と商店街の活性化の連携などがあげられる。

また、現在、中国・韓国の都市では、国や都市を挙げて、文化芸術や創造的産業の振興に取り組んでいるが、アジアの新興都市との都市間競争の観点からも、創造都市を今後の都市政策の切り札として位置づけ、さらなる推進をしていくことも重要な課題としてあげられる。

3 創造都市横浜の今後の展開

① 地域資源の新結合を促し新たな価値・産業を創出する

免疫系の特徴は、情報の共有化により、力を結集して、課題解決のコラボレーションをすることにあることから、創造都市を進めていくためには、プレイヤーの育成や活動支援とともに、情報の共有や協働のための場の支援が肝要である。また、地域資源の有効活用という視点も大切であり、横浜が有する豊富な地域資源を、さらに有効に繋げていくことが重要である。

デザイン・映像・メディア・コンピュータソフト、建築、等の「創造的産業」は今後の経済に大きな影響と活力を与

えることが期待できる。これらの分野については、産業を牽引する機能として、高度な研究開発力の有する大学や研究機関の集積と、これらのコアとなる機関と関連企業とのネットワーク形成が必要である。

現在、横浜アーツコミッション(ACY)が都心部を中心とした地域で、スタジオ練習場等の活動拠点を確保、空きオフィス・倉庫等の情報提供、展覧会会場や助成制度の紹介を行っているが、この機能の充実とともに、文化芸術活動を市場や、文化・観光産業などの創造産業と結びつけ、持続的に活動可能な仕組みをつくるなど、新たな施策も必要である。

創造的産業の振興については、コアとなる大学や研究機関、求心力のある企業などを誘致してコンテンツ産業を振興するという、いわゆるハリウッド型産業の振興も重要であるが、一方で、同人誌型産業の振興についても対応が必要である。日本では最近、同人誌市場が盛んであり、例えば、マンガ、アニメ、ライトノベルなどの分野においては、アマチュアとプロのボーダーがないコンテンツが台頭してきていることから、都市におけるカフェ機能の充実な

(注2) 平成19年にはフランスナント市、平成20年には韓国大田市で紹介された。

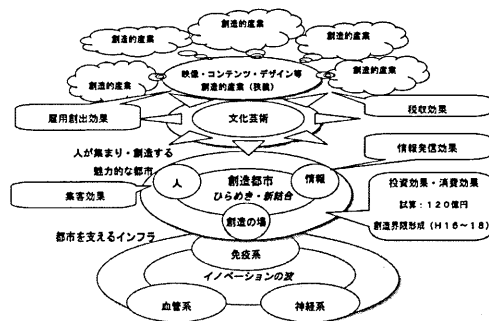


図2 創造都市による経済効果

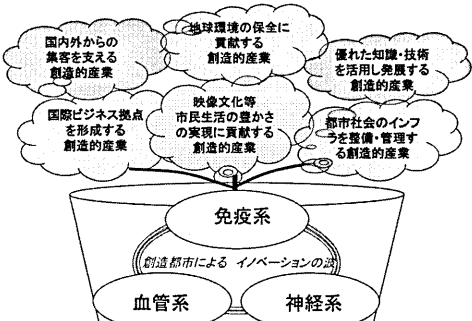


図3 イノベーションによる創造的産業の創出

ど、同人誌型創造的産業振興のための、市民参加システムに着目した新たな施策が求められている。

さらに、創造都市の形成による地域資源の顕在化と新たな連携・結合の促進は、イノベーションを促進し、他の成長産業分野での創造性を高め、新たな創造的産業の創出に繋がるのが期待できる。デザイン・映像・コンピューターソフト等「狭義の創造的産業」だけでなく、観光・コンベンション分野、環境分野、コミュニケーション分野などを含めた「広義の創造的産業」の振興のためにも、創造都市戦略を強力に推進していく必要がある。(図3)

② 創造都市により、地域課題の解決と活性化を推進する。

文化芸術の分野にもっとも顕著に現れる人間の創造力は、身の回りにある不安や困難、さらに環境や共存などグローバルな課題に立ち向かう力となる。文化芸術による創造都市の形成は、市民生活を充実させるばかりでなく、環境等の地域の課題解決や、都市の活性化にも大きな効果をもたらすものである。

免疫系は、生命体の命を守り元気にするシステムである。都市の免疫系である創造

都市も、同様に、都市の課題を解決し、活性化することにより持続可能な発展を実現させていくものである。そして、免疫系が、B細胞、T細胞、マクロファージなどの免疫細胞がコラボして敵にアタックするのと同様に、創造都市もアーティスト、大学、企業などのコラボにより、地域課題を解決し地域を活性化する力となる。

現在、初黄日ノ出町地区では、文化芸術のもつ力により、街の活性化が進められているが、こうした地域課題の解決と活性化における創造都市政策の拡大展開が期待できる。

また、免疫系のネットワーク形成は、地域内の連携にとどまらず、国内、海外の都市の地域資源と繋がることにより、補完さらに相乗効果が生まれ、横浜の創造都市形成を進めると同時に、他都市の創造都市形成にも貢献することができる。20世紀の国家の時代にたいして、21世紀は都市の時代であり、都市連携の時代でもある。創造都市の連携により各都市の活性化も図られよう。

③ 文化と経済と環境が好循環する新しい創造都市モデルを実践し発信する。

都市の持続的発展実現のためには、「文化」「経済」「環境」の3つの活動が好循環していることが必要条件である。持続可能な都市づくりには、まず、「経済」「環境」の好循環を形成することが重要であるが、創造都市を進めることにより、「文化」が推進力となつて「文化」「経済」「環境」の好循環を生み出すことが可能である。これにより、文化芸術の推進、経済の発展、環境など地域課題の解決という好循環システムの形成され、都市の持続的発展を支えていく。(図4)

「文化」「経済」「環境」の好循環とは、例えば、アートに廃材を活用すること、地球環境にやさしくかつデザインも美しい建物や都市空間をつくることなどである。こうした都市には、多くの人々が国内外から訪れ、創造的な活動が活発に起こるといふ新たな好循環も生まれよう。

おわりに 特色ある横浜の創造都市が世界の都市に貢献する

これまで、述べてきたことから、私なりに「創造都市」定義すると次のようになる。

「創造都市」とは、市民・NPO・企業等の活発な創造活動によって、豊かな文化や産業が育つ、魅力的でイノベーションに富んだ都市である。

同時に、地球温暖化などのグローバルな課題や、インナーシティなどローカルな課題をネットワークにより解決する力に満ちた都市であり、都市の持続的発展の必要条件である。

2009年に開港150周年を迎えるにあたり、これまでのプロジェクトや国内外との交流の成果の上に、国内外の先進的な都市が結集する「世界創造都市会議」が横浜で開催される予定である。ここでは、成熟期にある都市の課題を共有し、創造都市の次世代の都市像を再定義し「横浜会議宣言」が国内外に発表される。横浜から、近い将来、国内外の創造都市ネットワークが形成され、「文化」「経済」「環境」の好循環など新しい創造都市モデルが提案・実現され、それが世界に発信されるとともに、海外の都市の持続的発展にも貢献できるよう努力したい。

横浜から、創造都市ネットワークが世界に広がり、創造的活動の交流拠点として世界に通用する都市ブランドを確立していくこと、さらに、創造都市のグローバルネットワークが広域の免疫系として地球を元気に導いていくことを信じて事業を進めていきたい。

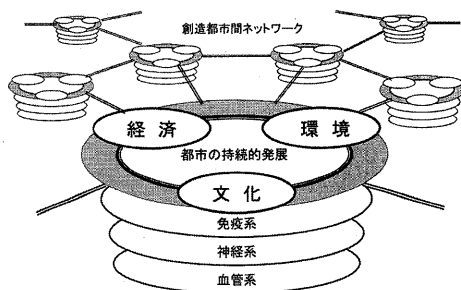


図4 文化・経済・環境が好循環する創造都市モデル

【参考文献】
前川正雄他
「競争から共創へ場所主義経済の設計」
(岩波書店 1998年)
マイケルポーター「競争戦略論」
(ダイヤモンド社 1999年)
金子延康・他
「21世紀イノベーションに向けて」
(日本ベンチャー学会報告集 2001年)
茂木健一郎「ひらめき脳」
(新潮社 2006年)
金子延康、他「横浜産業のルネサンス」
(斉藤毅憲編、学文社 2007年)
リチャードフロリダ
「クリエイティブ・クラスの世紀」
(ダイヤモンド社 2007年)
金子延康・他
「横浜の産業とまちづくり」
(斉藤毅憲編、学文社 2008年)
リチャードフロリダ
「クリエイティブ資本論」
(ダイヤモンド社 2008年)